

令和7年4月17日

futbol y vida

Poco a poco ...
boco y boco ...



2025年も Tリーグ序盤戦は厳しい洗礼を受ける!!

インターハイ予選突破し再び都大会へ!!

今年度も Tリーグ序盤戦は、厳しい現実を突きつけられる!!

インターハイ予選は、厳しい闘い必至!! 都大会出場して自信を掴む!!

4月1日(火)、T5リーグ開幕戦 **vs 明大八王子高校**は雨中の対戦となりました。昨夜から降り出した雨の影響で人工芝のグラウンドにも水溜まりが至る所にでき、加えてこの時期に2月中旬並みの気温であったので、季節が冬に逆戻りの中でのゲームとなり、コンディションとしては決していいとは言えませんでした。その中でも、一昨年から積極的にチャレンジしているコンパクトにしてプレスを掛けるスタイルに、新チームになり取り組んできたプレーで臨みましたが、そこが裏目に出て前半早々に失点し、その後貰ったPKを外すなど流れを最後まで引き寄せられずに大切なリーグ初戦を敗退。

続く第二節は、ホームグラウンドでのゲームとなりましたが、風の強い中徹底的に高いボールを蹴られ(久しぶりのハイパント攻撃)、こちらの陣地に押し込まれると相手の勢いに耐えられずにCKからOGで失点、カウンターから失点...

後半に入り、相手の運動量が落ちてきたのもあり二点は返したものの**2-4**で敗れました。しかし、この日のゲーム内容は、TRの成果も見られる場面も多く、次節の**武蔵高校戦**に繋がるゲームとなりました。課題は、失点の場面であり、最後のところはもっと激しくコンタクトしたり、身体を投げ出したり、最終兵器のスライディングを出すなど、ボールを奪う(狩る)スキルを上げるとともに、チーム全体的に最も基本である闘いに勝つための熱い **spirits** がまだまだ足りません。



🌧️ Tリーグ開幕戦は雨中の闘い VS 明八 🌧️

インターハイ西支部予選組み合わせ決定!!

インターハイ西支部予選組み合わせ抽選会が行われ、対戦相手が決定しました。一回戦はホームグラウンドで都立青梅総合高校、二回戦は新人戦シード校で格上の**創価高校(T3)**で、久しぶりに予選で闘う厳しい相手です。まずは、初戦にしっかり勝利して、二回戦で強豪校の創価高校に真っ向勝負を挑みたいと思います。

尚、二回戦(4月29日)、代表決定戦(5月3日)は、片倉高校のお隣りにある日本工学院八王子専門学校のグラウンドが会場となります。卒業生も何人かお世話になっています。久しぶりに高体連の大会で使われます。当日は、観戦上のルールを遵守され、公共交通機関を利用して会場にお越しください。宜しくお願いします。

54期生よ、「futbol y vida(サッカーを通して人生を学ぶ)」に高校三年間を懸けてみろ!!

4月14日(月)、54期生サッカー部入部説明会を行い新入生16名の生徒が参加。例年通り二時間に亘り、サッカー部の入部するにあたっての心構えと活動内容について時間をかけて話しました。特に、この数年で劇的に進化したサッカー部の根幹である「**凡事徹底**」についてピッチ内外でもしっかりと取り組んできたことが一番の要因であるということは、三年間取り組んできたキャプテン・部長からも説明があり、競技スポーツで結果を出すためには「上手い選手」の集団ではなく「いい選手」の集団になることは多くの強豪校から学ぶところです。また、コロナ禍の影響や都内の私学授業料無償化によりここ数年は高校の部活の取り巻く環境が大きく変化してきています。その中で懸念されていることは、公立高校の部活動の大幅な部員減少傾向です。本気でやりたい子どもたちは私学に流れているのが現状です。都立の強豪校も一部を除き部員が減少しています。それでも、公式戦では強豪校と闘わなくてはなりません。この厳しい環境の中、片倉高校サッカー部が三年連続で選手権大会**都ベスト16**(一昨年は**ベスト8**)という結果を出しました。片倉高校は選手の数ではなく質で勝負していきます。普通の高校生が勝ち上がるためには百倍も千倍もそして何万倍もトレーニングしなくてはなりません。そして同様に子どもたちの人間教育も必須です。そのためにはいつも傍で見ていて叱咤激励することは絶対に必要なのです。その両輪を大きくして前進していくには必然的に時間は掛かりますが、ここにはその環境が整っています。

「futbol y vida(サッカーを通して人生を学ぶ)」

片倉高校サッカー部のメインテーマは「サッカーは人作り」。**K's football style**で時間を掛けて丹精に育てていきたいと思えます。学校生活、取り分け部活動は社会の縮図ともいえます。この時代だからこそ、敢えて厳しい環境の中に身を置くことで、社会人になっても適応できる力が身に付きます。今年も、「**志が高く意志の強い覚悟を決めた**」高校三年間を我武者羅にサッカーに懸ける新入生を待ちたいと思えます。

部員減少、私学無償化…公立逆風の中で躍進を続ける異色の都立高!!

敢えてスポーツ推薦を導入「野球部から学校を盛り上げたい」若き先生の挑戦!!

前片倉高校の先生で、現在、板橋区にある都立大山高校の野球部の顧問三年目の**馬場先生**の記事が「**高校野球ドットコム**」に掲載されていたので紹介します。

◎創部初出場となった春季大会(112校参加)初戦は西東京の強豪・国士舘に2対12で敗れましたが、選手たちにとっては大きな一歩となりました。その快挙を支えたのはチームを指揮する今年29歳を迎える若き**指揮官**の馬場拓己先生です。赴任当時は部員二名で連合チームでの出場でしたが、「中学生のグラウンドをまわったり、練習が始まる前に河川敷で声掛けをさせてもらったり、そういった積み重ねが少しずつ実っていった」とその甲斐あって就任初年度の夏から単独チームとして出場を果たしています。また、都立の強豪校との合同練習を通してチームを強化でき形を作っていました。東京都の私学授業料無償化など都立校にとって逆風が吹く中今春からスポーツ特別推薦として野球部員を2名募集することが決定しています。時代に抗うような推薦枠導入には、馬場監督の熱い思いがありました。「大山の生徒として見た時に、目的を持たずに入学する生徒も少なくありません。それでは高校3年間がもったいないので、野球でも学校に来る目的が持てるならとお願いしました」部として実績を作り「野球部から学校を盛り上げたい」と熱く語る馬場監督のチャレンジに今後も注目するとともに、種目は違えども若く情熱のある先生を応援したいと思います。

🏆夏の大会で「**私立を倒す!!**」と燃えている(左2番目)🏆

